



令和5年度 金沢地区

～幼保小教育交流事業活動報告～

「園生活から小学校生活へ」

～子どもの育ちと学びをつなぐ支援を目指して～

金沢地区実行委員会

# ✿金沢地区 幼保小教育交流事業の内容✿

交流事業対象 幼稚園・保育園・小学校計74園・校

☆幼稚園 11園 ☆保育園 38園  
☆認定こども園 2園 ☆小学校 23校

## 実行委員会(年間5回開催)

年間計画立案・各種事業運営・ブロック研究状況の把握と、次年度への引継ぎも行う

## 園長・校長交流会

教育交流事業の意義や目的、趣旨を共有し、1年間の事業について、共通理解と情報交換を図る

## ブロック研究会

5ブロックに分かれて研究会を開催し、研究したものをまとめ、シンポジウムで発表し共有し、幼保から小学校への接続にいかしていく

## 公開授業・公開保育

各ブロックごとに、園・校の輪番で授業や保育を公開し、参観後ブロック員が話し合いの場をもち、幼保小の連携を深めていく

## 「健やか子育て講演会」

金沢区内の幼保小の保護者や教職員を対象に、講師を招き講演会を行い、共に学ぶ時間を共有する

# 実行委員会の 1年間の活動報告

○第1回 実行委員会 R5年5月8日（月）（八景小学校） 実行委員13名出席

→金沢地区幼保小教育交流の運営方針、事業計画、事業予算、今後の運営について

○第2回 実行委員会 R5年5月29日（月）（八景小学校） 実行委員12名出席

→園長・校長交流会の内容・役割検討/公開保育/健やか子育て講演会/ブロック研究会について

○第3回 実行委員会 R5年9月5日（月）（八景小学校） 実行委員14名出席

→公開保育について/健やか子育て講演会内容/ブロック研究会進捗状況

○第4回 実行委員会 R5年10月30日（月）（能見台南小学校） 実行委員14名出席

→健やか子育て講演会について/公開保育現在の状況/ブロック研究会について

○第5回 実行委員会 R6年2月26日（月）（八景小学校） 実行委員16名出席

→今年度のまとめ・次年度への引継ぎ



## ✿ 園長・校長交流会 ✿

令和5年6月26日（月）15：30～

八景小学校体育館

近年コロナ禍で紙面開催となっていたが、今年度久しぶりの対面開催となった。

今年度の活動計画・予算案の確認。後半には5ブロックに分かれてブロック研究会のテーマ決めなど、情報交換など交わした。

（参加者 61名）



## ☆ 健やか子育て講演会 ☆

コーチングコミュニケーション《優位感覚》  
～子どもの可能性を伸ばすコミュニケーションを～



日時 令和5年11月13日（月）  
14時30分～16時45分

会場 八景小学校 体育館

講師 一般社団法人 Seeds growth coaching  
代表理事 橋口 奈生 氏

国際コーチ連盟（IFC）認定プロフェッショナルコーチ（PCC）  
生涯学習開発財団認定 プロフェッショナルコーチ  
米国NLP協会認定マスタープラクティショナー

（講師紹介）

音楽大学を卒業後、15年間音楽教室を主宰し、ピアノ、リトミック講師として幼稚園児から 高校生までの子どもたちと関わってきました。人はどうすればモチベーションが上がるのか、目標達成のために必要なことは何か、いつも考えていました。コーチングに出会い、教えるのではなく相手から引き出すことの大切さを学び、相手を尊重することにより、相手の能力発揮のサポートになることを実感しました。2011年3月に音楽教室を辞めプロコーチとして独立し、コミュニケーションと人間関係、その人らしさとその能力を引き出すことを専門として活動しています。



# ☆「健やか子育て講演会」☆

## 参加人数

☆ 幼稚園	教職員	10名	保護者	12名	合計	22名	} 総合計114名
☆ 保育園	教職員	24名	保護者	6名	合計	30名	
☆ 小学校	教職員	23名	保護者	37名	合計	60名	
☆ 行政他			合計	2名			



○コーチングに出会い、実践していく中で、教えるのではなく相手から引き出すことの大切さを学んだ。練習をしてこない児童に、引き出すように話しかけたところ、変化がみられたことから、相手を尊重することにより、相手の能力発揮のサポートになることを実感した。

○人それぞれ有意感覚があり、相手がその中のどの感覚から物事を認識しているかを知ること、力を引き出すことができる。

○優位感覚…私たちは物事を「耳から入る音」「目から入る映像」「肌で感じる」「文章で考える」など様々な感覚を通して認識している。どの感覚を通して物事を認識しているか、というのが優位感覚で、学習スタイルの1つ。右利き、左利きがあるように、自分の使いやすい感覚、「利き感覚」が誰にでもある。どれか1つに絞られる人もいれば、2つ持っていたり、すべてをバランスよく使っている人もいる。優位感覚が何かを決めることではなく、優位感覚という視点を通して、自分や相手の特徴をつかみ、日常生活やコミュニケーションに活かすこと。

○どの感覚が優れているかではなく、「その人らしさ」をあらわすもので、その感覚を知ってアプローチをすることで、相手に伝わるコミュニケーションができる。逆に、これを知らないと、自分のやり方で相手に伝わらない時に、相手を「能力がない」「やる気がない」などと責めてしまいがちになる。目の前の相手がどの優位感覚にアクセスしているのかを知ること、その人により伝わりやすいコミュニケーション方法を工夫することができる。

# ✿ 公開保育 ✿

## 第1ブロック 並木保育園

10月17日（火）

公開時間 9:30～11:00

- ・各クラスの普段の保育を公開
  - ・10時にホールに集合し年長組朝の会からのリズム遊び
- 交流会11:10～12:00



## 第3ブロック 金沢さくら保育園

10月27日（金）

公開時間9:30～10:30

- ・朝の会
  - ・話し合い…お楽しみ会についてグループ発表
- 交流会10:30～11:20



## 第2ブロック 金沢ぴよっこ保育園

11月8日（水）

公開時間 9:30～11:00

- ・乳児クラス…おやつ・集まり
  - ・幼児クラス…自由遊び・朝の会
  - ・リズム
- 交流会11:00～11:30



## 第4ブロック

にじいろ保育園金沢文庫

9月7日（木）

公開時間 9：30～11：15

- ・リズム・準備体操
- ・各クラス運動会の練習他  
交流会11:15～11:45



## 第5ブロック

横浜市立南六浦保育園

12月19日（火）

公開時間 10：30～

- ・「食育活動」
- ・5歳児「だし比べ」
- ・4歳児「おにぎりパーティー」  
交流会11:15～11:45

当日園児の感染症が多く出た為延期。  
その後調整つかず、中止となりました。



# ✿令和5年度 金沢地区「ブロック研究報告会（シンポジウム）」

令和6年1月29日（月）金沢公会堂にて✿

- 金沢地区 全体研究テーマ

「園生活から小学校生活へ～子どもの育ちと学びをつなぐ支援を目指して～」

☆第1ブロック 「配慮を要する子どもへの特別支援の実際と連携を中心に」

☆第2ブロック 「日々の実践の中から子どもの成長の連続性を共通理解し円滑な継続を図る」

☆第3ブロック 「幼稚園・保育園で行う保育実践と小学校教育のつながりを検証する」

☆第4ブロック 「フォトカンファレンスから読み取る子どもの姿

～写真を通じて日々の活動を見直し、育ちと学びをつなぐために～

☆第5ブロック 「園生活から接続期に向けての連続的支援とその取り組みについて」

- ・シンポジウム形式による各ブロックの取り組みと研究活動報告

- ・指導講評 横浜市子ども青年局 保育・教育支援課 幼保小連携担当課長

田村 憲一 様



※ 次ページより 各ブロックごとに発表とは別にまとめたものを、記載いたします。

# ☆ 第1ブロック ☆

\* 並木幼稚園 \* こすもす幼稚園 \* フレンド幼稚園 \* あげぼの幼稚園  
\* 並木保育園 \* 並木第二保育園 \* しののめ並木保育園 \* 金沢ふたば保育園  
\* わらべシーサイド保育園 \* ビアレ横浜スマイル保育園  
\* とみおかスマイル保育園 \* アイグラン保育園 富岡東 \* 並木第一小学校  
\* 並木中央小学校 \* 並木第四小学校 \* 富岡小学校

テーマ\* 「配慮を要する子どもへの特別支援の実際と連携を中心に」

※第1回（7月31日）テーマ決め◇園長・校長交流会で挙げた3つのテーマ案を基に検討

（協議結果）第1ブロックは「配慮を要する子どもへの支援の実際と連携」とする

第2回目から次のことの情報共有・情報交換をする。話し合いのスタイルは、グループ⇒全体共有

- 1 「配慮を要する子どもへの支援の実際と連携」
- 2 「安心・安全な食育」
- 3 「特色ある活動の実際について」



※第2回（8月31日）「配慮を要する子どもへの支援の実際と連携」－協議内容の抜粋－

- ・発達に配慮を要する児童に対しての対応は各校や園で行っている。集団のペースに合わない子には保育園で前日に次の活動を伝えている
- ・アレルギー対応ではお盆を分け、目で見てチェックしている。座る場所なども変えている。小学校では年に1回保護者との面談を行っている
- ・行動面での配慮を要する児は、他の児のペースに合わせられない。やりたい事があれば頑張れる活動を考え、見通しを持って活動を考えている
- ・〇〇小学校の個別支援級は、「知的障害」と「自閉症・情緒障害」の2クラスがあり、子どもにあった支援を行っている。



### ※第3回会合（9月19日）「安心・安全な食育」－協議内容の抜粋－

- ・小学校給食…トイレに行ってから白衣を着る。白衣のボタンを留める の流れ。6月までは地域のボランティアの支援がある。
- ・箸、鉛筆、ボタン留め、くつひも結び等がうまくできないことが多い。コロナ禍にて、大型遊具での遊びが不足していることが、握力に関係している可能性も。指先体操を導入している。
- ・小学校では、カウンセラーを活用することが多い。また、不登校の子どもを対象に特別支援教室も設置しその子に合った時間の使い方と学びをしている。 他

### ※第4回会合（11月2日）「特色ある活動の実際について」－協議内容の抜粋－

- ・園庭に畑があり、野菜を育て収穫して食べている。自分たちで育てたものを食べる経験をしている。
- ・小学校では、たてわり活動をし、遠足や集会を実施しており、6年生がリーダーシップを発揮。1年生は安心して学校生活送っている。
- ・調理員や担任での提供の給食に間違いないように、ダブルチェックをしている。・園では3～5歳でたてわり活動をしており、同じ教室で活動する。5歳児がトントン隊になって年下の子どもを寝かしつける活動もしている。

### ※第5回会合（12月19日）【協議内容】シンポジウムへ向けてパワーポイントを使って試行する

- ・幼稚園・保育園・小学校に分かれて協議し発表出来るようにまとめる
  - ・まとめたものを、シンポジウムで発表⇒





## ☆第2ブロック☆

\* 京急幼稚園 \* あけぼの幼稚園 \* こすもす幼稚園 \* きらら保育園 \* YMCAマナ保育園  
\* 金沢ぴよこ保育園 \* アイン能見台駅前保育園 \* きらら子どもの家保育園  
\* 西富岡小学校 \* 能見台小学校 \* 能見台南小学校 \* 小田小学校

テーマ 「日々の実践の中から子どもの成長の連続性を共通理解し円滑な継続を図る」

### ☆研究内容と方法

- ・初めに研究テーマの分析を行い、どのような子どもの具体的姿に着目するかについて整理した。分析の際には横浜市青少年局保育・教育支援課が出している「架け橋カリキュラムデザインシート」を使って、研究テーマにある「子どもの成長の連続性」「円滑な接続」とはどのような子どもの姿なのかまたそうした子どもの姿が見られるためにはどのようにすればよいのか、研究の方向性について話し合った。
- ・幼稚園・保育園での日々の生活の中で培ってきた力を自信をもって発揮し学び続ける子を子どもの具体の姿とし、そのために指導者・保育者であるわたしたちが、互いに教職員や子どもどうしが交流した安心感や学校に対する期待をもてるように支援していくことを具体的な研究内容に設定した。そしてその方法を「安心感」「子どもの声を聴く」「褒める（認める・価値づけ・助言）」という3つの視点で整理して研究を深めることとした。他

## ☆研究成果と課題

【成果】・子どもの具体の姿で、幼保小それぞれの職員が語り合える環境

- ・子どもの実態を共有し、教職員にとっても互いに見通しをもって子どもとかわること
- ・毎回異なる会場を設定したことで、さまざまな学校、園生活の様子を垣間見ることができた

【課題】・子どもたちが直接かわりあう場を設定すること

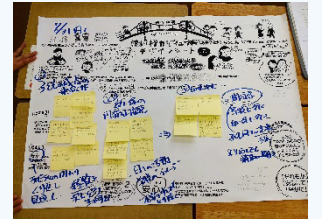
- ・体験をよりつなげられるように、園での生活経験を学校がもっと知ろうとすること

【展望】・小学校授業参観、保育参観などを通して、職員交流をより盛んにしていきたい

- ・子どもたちだけでなく、教職員、保護者にも幼保小交流事業の取り組みを知ってもらいたい

## ☆まとめ☆

・日々の実践の中で、子どもたちの好き・得意に着目して声を聴き、活動を通して子どもたちを褒めまた次の活動への意欲とする。このことを幼保小で引き継ぐことが子どもたちの安心感につながる。



## ☆第3ブロック☆

\* 光輪幼稚園 \* 天使幼稚園 \* 文庫幼稚園 \* 金沢大道幼稚園 \* 西柴保育園  
\* 金沢愛児園 \* 聖星保育園 \* あおぞら谷津保育園 \* わかくさ保育園  
\* 京急キッズランド金沢文庫保育園 \* 金沢さくら保育園 \* しののめ保育園  
\* 金沢小学校 \* 八景小学校 \* 文庫小学校 \* 西柴小学校

### テーマ 「幼稚園・保育園で行う保育実践と小学校教育のつながりを検証する」

～話し合いに焦点を当て保育から教育への事例を研究する～

#### ☆研究内容と方法

- ・幼稚園・保育園での話し合い活動の経験や学びが小学校にどのようにつながって成長していくかを実践報告を通して研究する。
- ・就学予定園児の多い小学校を中心とした4グループに分かれ、実践事例を持ち寄り、成長の様子について話し合う。

#### ☆研究成果と課題（話し合いを通して育ってきている成果と思うこと）

- 【幼稚園保育園】→・他者の意見をしっかりと聞き、受け入れたり自分の意見を発信したりできる様になった。
- ・自分自身の気持ちの折り合いをつける力 他

※子どもだけの話し合いをまとめるのは難しく保育者の仲立ちが必要な場面も多い。

- 【小学校】→・相手が伝えたいことをきちんと聞こうとし、伝わる話し方をしようとしている姿。

- ・友達の考えを聞くことにより自分では思いつかなかったこともあると実感した。他



【幼稚園・保育園から見た小学生】→・小学校の話し合いでは、年長児に比べ子どもたちの想像力の豊かさが感じられた。

- ・様々な意見が出るなど高度な話し合いがされていると感じた。教諭が入らなくても話し合いが進み、まとめることが出来ていると感じた。 他

【小学校から見た年長児】→・話し合い活動が幼稚園・保育園でも多くの場面で取り入れていること

- ・幼稚園・保育園で培ってきた力を生かし、更に伸ばしていけるようにするためにも、幼保小の連携は有意義であると感じた。 他

#### ☆まとめ☆

- ・保育園・幼稚園では、話し合い活動を積極的に取り入れることで協調性や自己肯定感が育ち、小学校入学後も様々な課題を自分事として話し合いに参加できる子どもの育成が期待できる。
- ・小学校では幼稚園・保育園での話し合い活動の経験を活かし、学習の場面や生活の中で自分の思いを表現する姿があった。また、新しい機器を活用することで、より表現の幅も広がっていることが分かった。

## ☆第4ブロック☆

\* 金沢白百合幼稚園 \* カナリヤ幼稚園 \* 釜利谷保育園 \* 明德釜利谷保育園  
\* スターチャイルド金沢文庫ナーサリー保育園 \* マミーズエンジェル金沢文庫駅前保育園  
\* にじいろ保育園 金沢文庫 \* フレンド金沢文庫保育園 \* にじいろ保育園 釜利谷  
\* アイン金沢文庫保育園 \* 明日葉保育園金沢文庫 \* 釜利谷小学校  
\* 釜利谷東小学校 \* 釜利谷南小学校 \* 西金沢学園小学校

### テーマ 「フォトカンファレンスから読み取る子供の姿」

～写真を通して日々の活動を見直し、育ちと学びをつなぐために～

#### ☆研究内容と方法

・今年度は持ち寄る写真のテーマを毎回設定することで、幼稚園・保育園の活動の内容、子どもの姿や経験を理解し、その学びがどのように小学校の活動や経験につながっていくのかといった「子どもの育ちや学びの縦のつながり」について理解を深めることができるのではないかと考えた。－ 3つの研究会では各テーマ「探求」「表現」「かかわり」に基づき、写真を持ち寄り、幼・保・小つながりの中でお互いの生活と活動内容を理解し、子どもの育ちと学びについて話し合う事が出来た。その中で保育の場と小学校でつながる活動がいくつかあった。子どもが取り組む姿に共通する力と小学校で新たな展開から学びにつながっていることなどを確認することができた。

#### ☆研究成果と課題

・様々な園の取り組みを知ることにより、自園の保育を見直し、保育を広げていくことにつながった。

## ☆研究成果と課題

- ・保育園や幼稚園で行っている活動が小学校でも行われていることが分かり、活動のつながりについて、子どもの育ちについて、写真を通して分かりやすく、理解を深めることができた。
- ・コロナも5類に移行し様々な活動が行われるようになった。人のかかわりの大切さを改めて認識することとなった。今後もさらにかかわりを広げ、連携を深めていきたい。

## ☆まとめ☆

- ・乳幼児期から高校に至る教育の根幹となる「資質・能力」について共通理解をし、具体的な姿として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「小中連携における9年間で育てる子ども像」についてイメージ図について理解を深めたことにより、保・幼・小・中という縦のつながりと連続した子どもの育ちを意識して、話し合い、活動を終えることができた。





## ☆第5ブロック☆

\* 関東学院六浦こども園 \* あさひな幼稚園 \* 南六浦保育園 \* かのん保育園  
\* 北六浦いちい保育園 \* ひかりとたねの保育園 \* ゆめ和柳町ほいくえん  
\* 金沢八景YMCA保育園 \* コンビプラザ金沢八景保育園 \* 六浦小学校  
\* 六浦南小学校 \* 朝比奈小学校 \* 大道小学校 \* 高舟台小学校 \* 瀬ヶ崎小学校  
\* 関東学院六浦小学校

### テーマ「園生活から架け橋期に向けての連続的支援と、その取り組みについて」

～小学校に向けて、困らないってなんだろう～

#### ☆研究内容と方法

・新型コロナで、今まで当たり前できていた経験ができない3年間を過ごしてきた小学校や幼稚園・こども園・保育園がそれぞれの生活の違いや日頃の取り組み、交流の様子等を共有しながら、次の3点の観点に話し合いを進めた。

①「交流・関わり・コミュニケーションの育成」◇交流することでイメージ・見通しがもてるようになり安心感に繋がる

・小学校（児童・教師）と年長との関わり ・年長クラス同士の関わり

②「意欲・主体性の育成」◇幼稚園や保育園における遊びや生活の中での経験や積み重ねが、小学校での意欲につながる

◇やったことのないという経験を減らす、できないという不安を減らす

⇒子どもたちが「やってみたい・やってみよう」と思いをもてるようになること



③「発信力・表現力の育成（言葉や表情に表す）」◇ノンバーバルコミュニケーションからバーバルコミュニケーションへ  
・ノンバーバルコミュニケーションを丁寧に受け取る姿勢（観察・推察）

・こどもの発信を言い換える ・こどもの本心を表現 ⇒受け手としての保育者・教師の関り

☆研究の成果と課題

(成果) ・相違点や小学校生活の中でも引継ぎがれていること、就学前に取り組んでおく  
小学校での活動のハードルが低くなることが分かった。

・「できない」「困っている」子はいないか、いればどういう姿をしているか、なぜそのような姿となったのかを考えることで  
教育・保育観を高める大きなヒントとすることができた。 他

(課題) ・次年度は交流の計画を早めに行い、各園や各学校とのやり取りや連携を密にしていくことで、継続的な取り組みを  
実現することが出来ると考える。



☆まとめ☆

・「困ってもいいんだよ」 こどもが育つ場として幼保小に違いはない。保育者と小学校の先生が互いの保育と教育を理解し合い  
互いの理解を深めるために「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりにして“顔の見える関係づくり（連携）”を継続的に  
行いながら、目指す子どもの姿にこれからも迫っていきたい。

# ☆成果と課題 来年度に向けて☆

## 【成果と課題】

- ・今年度はコロナ明けで、ようやく対面での講演会やブロック研究会など行うことができた。しかしコロナ禍で活用していたZoomなど、良い面もあるので今後も活用しながら、行っていきたい。
- ・ブロック研究会を通じて、担任同士が対面する事で、そこから交流の幅などが広がった。
- ・「健やか子育て講演会」は講師の橋口先生の講演は大変好評であった。保護者も対象になっているが、保護者の中には時間的に参加が難しかった方もいたので、時間も今後考慮していく。
- ・各ブロックの公開保育では、コロナ前は他のブロックの公開保育への参加も可能であった。しかし今年度はコロナ明けの為自園のブロックのみの参加とした。しかし他のブロックの公開保育にも参加する事が出来れば、参加人数が増えるのではないかと意見もあった。
- ・幼保小の活動は一年一年の積み重ねが重要になってくるので、コロナ明けまた一年一年積み重ねていきたい。